

【情報 2】

午前 9:30 指定された避難所を訪問。玄関先で名簿を確認。当該一家の名前を確認し、入り口で要件を伝え、所在を確認し、生活スペースまで案内された。災害時アセスメントシートに沿って、生活状況・健康状態を聴き取り開始。

長男が対応する。

集団での避難生活で眠れない日が続いているうえ、目を離せない認知症の母と、避難所生活で思うように排尿が出来なくなった父の世話もあり、一緒に避難している隣人に母の世話を頼み、父については避難所に巡回してきた保健師に相談して、医師のところへの受診に奔走するなど疲労感が強く、もともとのうつ病の悪化も懸念される状態であることが確認できた。

長男に、夫の受診結果を尋ねると「慣れない避難生活によるストレスから尿閉となったのであろう」との災害派遣医師の見立てであった。応急的にバルーンカテーテルを挿入して導尿し、以後、ハルンバックを携行することになり、交換のため近日中に泌尿器科に受診しなければならない状況と聴き取った。

母親の状況を尋ねると、環境の変化も相まって、以前にも増して帰宅願望が強く表れ、昼夜関係なく「家に帰る」と言っては外へ出ようとするため、長男が声を荒げて制止すると、そのやり取りに避難所の隣近所から苦情をもらうなど度重なっており「中には良くしてくれる人もいるが、周りにこんなに迷惑をかけては…、ここでの生活も限界」と話す。

長男と面接中、傍らで父親がだるそうに横になっていた。母親も眠り込んでおり、理由を尋ねると「昨夜も遅くまで騒いだから…」とのことで、両親を起こさないようにして長男から生活状況を聴き取った。